

かし、大人の場合、修習級は、全日本剣道連盟の三段の実力と見られている。それほど、きびしい稽古をこなし、形もできています。

一週間のケジメをつける ためここをやってくる

宏道会の門を叩く者は、小学生から五十歳の大人まで、と数多い。他の道場でも見られる光景ではある。

しかし、「剣禅一如」の教えを説く「宏道会」の厳しさは、形に表われる剣道だけに限らない。

むしろ坐禅のほうが厳しい、と会員たちは言う。小学五年生の会員は、初めての坐禅に耐え切れなかったそうだ。夏の朝はまだ良い。ところが冬の坐禅となると、寒さに我慢できない。つい、体を揺すってしまう。

その瞬間、長野会長の、「動くな、背筋をのばせ」と、大きなカツが入る。

そんな日々をくりかえして耐え切った者のみが残った。

四十歳で入門した木下進さんの場合は、「五戒の内容は実にすばらしかった。これは人生にもビジネスにも通用する、含蓄のある言葉です。会社でも仕事の進め方の基本としてこの五戒を利用しています。若い者にも、やりっ放しにするな、と大きな声を出しています。

私に限らず、男の大人の世界では、ビジネス社会中心の、大人だけとの人間関係がすべてとてよい。それが、宏道会で剣道と坐禅をはじめたおかげで、子供の友達、仲間ができて本当にすばらしい。

また、四十九歳で入門した金子剛さんは、宏道

会で「剣禅一如」を修行して以来、仕事にも張りが出たと次のように語っている。

「体の調子はもちろんよくなり、坐禅を通しての精神統一と精神訓話がとてためになっっている。

子供達だけでなく、私も忘れかけていた節度というものを取り戻した感じがです。日曜日に道場通いしないと、なんとなく一週間のけじめがつかず、かえって疲れを覚えます。

それに、今まで、心のもやもやしたのも、体の不安も、宏道会へ入ったことで一度に吹きとんでしまいました。これからの人生に自信が湧いて、楽しい毎日です」

金子剛さんは、俳人でもある。

次の六句は、いかにも宏道会の剣道を印象深くする。

道場の板が身に沁む

子供の日

坐禅組む緑の匂い

鳥の声

汗かきし太鼓響きて

稽古止む

坐禅組む足の痛みや

法師禪



腹の底からの呼気が道場内にひびきわたる

妙位の祝い尽きなし秋の夜
老いの身をとばす気合いや落葉舞う
「現代剣道と禅」は、ここに生きていた。